

けて仕舞ひましたんや。今更蜜柑か無いと云ふたら若旦那は氣を落として一遍に死で仕舞やはりますワ。そふすると私が差詰め主殺しの……………イヒ、、、、主、主殺しの……………逆磔刑だんね。」

「そらエライ事や。併し夫れやつたら、こんな處をなんぼウロ／＼してたかてあきまへんで。早ふ天満へ行て見なはれ。彼邊には紅果問屋が仰山おます、中には蜜柑位ひ藏ふてる家が有るかも知れまへんで。」

「アツ左様やほんに天満を忘れてました、大きに有難ふ、良え事教えとくなはつた。貴方は命の恩人だす、何づれ御禮に参ります。左様なら……………左様や天満へ行たら有るかも知れん……………どふぞ有て呉れたら良えがなア……………若しも無かつたらどない仕よう……………あばらの三枚目……………ブスツ。トホ、、、、……………あゝ来た／＼。仰山問屋が竝んでるワ。片つ端から訊ねて見たる。へエ御免。」

「あゝおいでやす。」

「あのお宅に蜜……………颯りに来たんやおまへんねで、怒つとくなはんや。蜜……………暑さに胃てられてるのやおまへんで。蜜……………トホ、、、、……………おまへんやろなア。」

「解らん。もつと明確り云ふとくなはれ。」

「あの……………蜜柑はおまへんか。」

「ア、蜜柑だすかイヤ有ます。」

「ギエツ。あるツ。」

「慥に一箱だけ藏ふておます。」

「きやア。」

「あ痛たゝゝゝ。何するね此人は、胸倉絞めてどふするのや。」

「さア賣つて。さア賣つて。早ふ賣つて。」

「ま兎に角手を放しなはれ。あゝ痛かつた、無茶する人やなア……………宜しい、今出させます、これ定吉。倉へ行て蜜柑出して来い……………よし／＼其處へ置いて蓋を取れ。お客さんあれや。ま急きなはん、暫く手を入れなんだで何ふ成てるやら解らん。定吉どふぢや。何、皆腐つてるかそら仕様がな。お客さん、折角やつたが皆腐つてるワ。」

「うわーん。」

「泣きなはんないナ大きい聲で。」

「これが泣かんと居られるかいナ。いよ／＼ブスツ。キュー。ふわア、、、、。」

「そら何の事やね。よくせき蜜柑の要る人らしい。ま暫く待つて見なはれ、も一遍念入に調べて見た